

【連携中枢都市圏構想】

四日市市を中心とした三重県北勢地区の新たな広域連携

【連携中枢都市】	
四日市市	307,766人
【近隣市町】	
桑名市	140,290人
鈴鹿市	199,293人
亀山市	51,023人
いなべ市	45,684人
木曽岬町	6,855人
東員町	25,661人
菰野町	39,978人
朝日町	9,626人
川越町	14,003人
【合計】	840,179人

基準人口：H22国勢調査



「連携中枢都市圏構想」

四日市市が近隣市町と連携し、コンパクト化とネットワーク化により「経済成長のけん引」、「高次都市機能の集積・強化」及び「生活関連機能サービスの向上」を行うことにより、人口減少・少子高齢社会においても一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するための拠点を形成することが目的

- (1) 継続事業を中心に連携・協力する事業を本構想事業として取り組むことで、
連携中枢都市・近隣市町に財政措置がある。(普通交付税、特別交付税)
- (2) 内容によっては、市町単体の事業であっても構想における事業として取り組むことで、
財政措置がある。(普通交付税、特別交付税)

【例 1】 内部線・八王子線・・・四日市市以外の住民であっても、通学、
通勤や通院などに利用することから、存続は重要である。

【例 2】 いなべ市避難所整備（確保）・・・有事の際における沿岸部等の圏域住民の
避難所を確保する必要がある。

【財政措置】

- (1) 連携中枢都市圏構想・・・普通交付税（四日市：2.2 億円程度）、
特別交付税（四日市市：1.2 億円程度、近隣市町：1,500 万円）
- (2) 定住自立圏構想・・・特別交付税（中心市：8,500 万円程度、近隣市町：1,500 万円）